湘南学園だより

No.96

発行
湘南学園
学園だより
編集部

湘南のペスタロッチ

湘南学園学園長　藤岡貞彦

今春、四月六日のことである。卒業生佐藤允さん（本学園第四期卒）のお誘いで、「マリア　大森秀先生をしのぶ会」に参列した。午前十一時からカトリック藤沢教会で追慕のミサ。

十二時から、銀座アスターで先生をしのぶ会。仏式でいえば、先生の二十三回忌という場であろう。二十八人の教え子と旧い同僚たちとの亡き先生のご遺徳をしのぶ、心あたたまる清らかな集いであった。

もちろん、着任一年後の新米園長が、マリア様を知るはずもない。昭和四十二年三月に三十年の学園生活を終えられ、学園全体に惜しまれて教壇を去られたクリスチャン先生という伝説だけをたよりに、小さくなって参列しただけである。

ところが、ミサの場から昼食会へと会がすすむにつれ、会場の異様なたかぶりに、私は段々とうたれはじめ、アスターを後にする時には、はや、大森先生を学園の女神と思いはじめた。

もちろん、七十歳前後の同窓生の久々の集いからくる熱気もあったであろう。だが、皆さんのミサでのご挨拶といい、テーブル・スピーチといい、マリア様への賛辞と先生の教え、いや先生との学びと遊びについての熱烈な言葉がつい昨日のことのように語り合われるのである。二十三回忌にもなって昨日のことのように思い出が語られる至福。

これ以上の教師の醍醐味があるだろうか。

帰りがけにお土産として『同窓会会報』（昭和四十二年六月一日発行）をいただいて、その秘密がカラリとわかった。「さようなら大森先生　学園と共に三十年」と題されたマリア様特集号の巻頭は、あの宮下正美第三代園長の「女性ペスタロッチ」でかざられている。なに、ペスタロッチだって？　ペスタロッチになぞらえられている先生が、この学園におられたのか、と深い感慨にひたった。

「学園の主（ぬし）といった感じの先生でした。学園とともに生き、学園とともに育ち、学園とともに老いへの年輪を加えてきた先生。生徒のことが頭にいっぱいで、そのほかのことは顧みないといった姿は、なかなかにありがたい、すばらしい先生だと思う。女性ペスタロッチといえましょうか。」宮下園長は詩人である。すばらしいオマージュだ。

以下、「教育に賭けた人」「人生のカウンセラー」「地獄で仏」「先生へのたより」と、贈ることばが延々と目白押しのように続いた最後は、かわいい二年生の「もっといてくれるといいのに…」という作文である。「大森先生、ながいあいだ、おせわになりました。

おにいちゃんたちも、大森先生にお世話になりましたね。それでおにいちゃんたちのせいせきは、すごくいいです。ぼくが、大森先生にならっているときで、**いちばんうれしかったのは、作文や詩をかくときです。いちばんかなしいときは、先生をおこらせたりしたときです。**」

大森先生を存じあげるはずもない小生が、三十八年前の『同窓会会報』を一読して、泣けて泣けてならなかった。「年頃になった卒業生たちは、先生が独身であったせいもあろうが、なんの気兼ねもなく家に出入りしたものである。」「気楽なお独り身の大森先生は、また、広く、すべての人々に博愛の論を垂れ給うた。」「私ども同僚はもちろん、数多い同窓生諸兄姉も、大森先生に恋愛、結婚、その他よろず人生相談のカウンセラーとして、時に、愛憎の争克の極限としての喧嘩の救いの神として、お世話になった方々が多いのではないでしょうか。」なんという倖せな師弟・同僚との関係だろう。生涯続く、神縁・仏縁・人縁である。

ふと浮かんだのは、「同じ喜びと悲しみの中で」という一句である。ペスタロッチを一言でいいあてた言葉だ。

これに先立つ、今春二月十二日、「中野光先生のペスタロッチ―教育賞受賞をお祝いする会」があり、ペスタロッチの研究者でもない小生まで招かれて、会場の片すみに小さくなって座っていた。記念講演は「沢柳政太郎と〝日本のペスタロッチ〟」であった。帰りがけに、中野光著『日本のペスタロッチーたち』をいただいた。ペスタロッチの名を追慕特集の『同窓会会報』でこの日見つけ、あらためて、学園にはこのころ、「青い鳥」が舞っていた、と思ったことだった。この学園で、一人の「湘南のペスタロッチ」が日々、子どもと遊んでいたのである。嗚呼。

『泥んこ太陽』

年中組学年主任　三田　智子

私が初めて湘南学園幼稚園に来たとき、全身泥だらけになって遊ぶ子ども達の姿を見て、とても驚きました。それまで勤めていた幼稚園ではこのようにダイナミックに遊ぶことがなかったことと、このときの子ども達の表情が、とてもイキイキとして楽しそうだったからです。

「泥んこ太陽」の歌

♪僕達は、私達は
　素晴らしい仲間達
　みんなの友達は泥んこ太陽
　みんなで、みんなで作ろうよ
　明日の、明日の幼稚園！

これは、湘南学園幼稚園で昔から歌い継がれている歌で、元気が出て楽しくなる、子どもも大人も大好きな一曲です。オリジナル曲ではないのですが、初めてこの曲を聴いたとき「なんて、湘南学園幼稚園にピッタリなのだろう！」と驚いたことを思い出します。

子ども達が遊ぶ園庭は、半分がドッジボールやサッカーなどが行えるように固く平らな砂地、もう半分はどこでも掘り返せる、柔らかな砂地になっています。そこは公園にある砂場と違い囲いがなく、保育室を一歩出ると、泥んこ遊びが思い切りできる環境なのです。水道があって、シャベルやバケツ、お皿や竹筒など泥んこで使う様々な道具があって・・・ここは、私にとっても子ども達にとっても、魅力的でワクワクする場所です。

新しく幼稚園に仲間入りした子ども達は、自分の胸ほどまで高さがあるシャベルを嬉しそうに持ち、

池の中に…ドボンッ!!

まだたどたどしい手つきで、でも一生懸命に砂を掘り起こします。その姿を目にした泥んこ遊びの先輩でもある年長児は、今までの経験をもとに道具の使い方、山作りや水の流し方などを、自然な形で年下の子に教えてくれます。年中・年少児は、自分達ではできないことを次々に行う年長児に憧れ、見様見真似で同じような遊びを始めたり、初めは躊躇していても、楽しそうな年長児の姿を見て池の中に飛び込んだり・・・と、遊びの中で沢山の刺激を受けます。このようにクラスや学年の枠を超えて、様々な子ども達が混ざり合う姿が見られます。次から次へと遊びを受け継いでいく・・・こういった姿は、湘南学園幼稚園ならではのものであり、いつまでも大切にしていきたい、とても素敵なところだと思っています。

保育をする中で、私が大切にしていることは、子ども達と同じ目線に立ち楽しさを共有することと、雰囲気を盛り上げる言葉掛けや周りでほかの遊びをしている友達と接点が持てるような働き掛けをすることです。このようにすることで、子どもたちとの距離がグッと近づき、信頼関係を築くことができるからです。同じ遊び仲間として泥だらけになりながら、山を作り池を掘り、裸足になってドボンと飛び込む。何より私自身が「楽しいな！」という気持ちを持つことが、子ども達と遊ぶ中でとても大切だと考えています。当たり前のことですが、だからこそずっと大切にしたいと思っています。

子ども達が片付けをするとき「先生、また明日もやろうね！」と笑顔で話す姿や、降園時にお家の人に得意気に話しながら山などを見せている姿、泥だらけになった洋服などから、その日一日を楽しく過ごし、満足感を味わった様子がうかがえます。そして、このように子ども達が思い切り泥だらけになって遊べるのは、保護者の方の理解や沢山の協力があるからこそだと、とても感謝しています。

これからますます気温が上がり、泥んこ遊びが盛り上がることでしょう。今年もまた、沢山の子ども達が解放的な気持ちになって思い切り遊び、「泥んこ太陽」と仲良くなれることを祈っています。

児童会縦割り班活動

鈴木　努

小学校では、毎年新一年生の入学を歓迎して、片瀬西浜の砂浜で交歓会を行っています。

これは、児童会の行事の一つで、一年生から六年生までが縦割りの一つの班を作り、みんなで協力し合って砂の造形を行います。

交歓会は、縦割りの班でいっしょに一年間を過ごしていくための最初のイベントです。

この行事を出発点として、縦割りの班での集まりが学期に何回か行われていきます。その後の集まりでは、六年生がリーダーとなり、いろいろな企画を提案しながら、いっしょに班で活動していきます。例えば、ハンカチ落としなど六年生の方で事前に考えておき、みんなで集まった時に六年生の指示で行います。

特に縦割りの班の中では、一年生と六年生のつながりが強く、六年生は、一年生の入学時から担当の子を決め、マンツーマンでお世話が行われます。

入学式は、六年生が一年生の手を引いての入場で始まります。お互いに緊張した顔での入学式への入場は、とても微笑ましくもあります。

その後は、朝のお支度のお手伝いから始まり、休み時間は、いっしょにボール遊びをしたり、鬼ごっこをしたりなど、まるで兄弟のように仲良く過ごしている場面を見かけます。

また、弟や妹がいない六年生も、大張り切りで一年生とのかかわりを楽しんでいます。

そのうち、本当の兄弟のように仲良くなった六年生と一年生は、毎朝笑顔でいっしょに登校してきています。

このような関係は、六年生と一年生だけに限らず、一年間を通していろいろな学年に広がっていきます。

とは言っても、やはり六年生と一年生のつながりがとても強いものとなります。

三月の卒業式では、六年生は、自分の担当した一年生から花を贈られます。そして、六年生は、自分たちの気持ちをコールと歌で表します。式の最後は、拍手で六年生が送られます。その拍手に混ざって一年生の子どもたちのむせび泣く声が聞こえてきます。

一年生の泣く卒業式は、日本で唯一だと思います。

砂のアートに大満足

岸田　修成

今年の交歓会の目標は、「一年生から六年生までが、力を合わせて、仲を深めることができる楽しいイベントにしよう」です。

また、砂の作品のテーマは「動物園にいる動物」に決定しました。

これらは、執行委員が頭を捻って、試行錯誤を繰り返し、全校児童のために考えました。

交歓会までの活動は、高学年集会から全校集会へと段階的に取り組んできました。

まず、五、六年生が目標を決め、作品テーマのアイデアを出し合いました。それを基本に、班全員で考えた結果、パンダ、ナイルワニ、トラなどの動物に決まりました。しっかりとしたイメージスケッチもあり、一、二年生にも分かりやすい話し合いが持たれました。

当日は、天気にも恵まれました。海に向かって歩く姿も、微笑ましい限りでした。六年生と手を繋ぎ、バケツを引きずるように持っている一年生。歩くたびシャベルがリュックから落ちそうな二年生など。

風もなく、波も穏やかな最高のコンディションの海岸で、作品作りが始まりました。

下絵を砂に描く班、大きな砂の山から作る班、水取りや砂掘りといった役割を分担しながら進める班など、スタイルは様々でした。

五、六年生は今までの経験を活かし、下級生をリードしながら、手際よく作業を進めていました。

残り時間が少なくなるにつれて、全身が砂だらけになる子、下着まで濡れてしまう子がたくさんいました。それさえも気にならない様子で、作品づくりに没頭していました。

完成した作品を、少し離れて見ている子どもたちの顔はどこか誇らしげで、充実感で一杯でした。

十八個の砂のアートが、清々しい五月の空の下、ダイナミックに並びました。

今年度の中学1年生は6クラス
新しい学校生活の取り組みから

中高総務主任　山田　明彦

前号でお知らせしたように、今春の中学入試は、史上最多の応募者を集めて、実質競争率が４倍を越える難関となりました。ここを突破されて入学した諸君が１４２名、学園小学校からお迎えした内進生が８４名で、新中１の皆さんの合計は２２６名となりました。手続きの率も予想を超える高さとなり、これまで何とか維持してきた中高６か年・５クラス一貫の体制を変更しなければならなくなりました。

現在の中２や中３も２００名を超える人数でスタートし、過密な環境でご負担をかけてきましたが、今回は特に１クラス増加の決断をせざるを得なかったのです。１９９７年度から高校募集を廃止し、中高一貫の指導体制を充実させ整備してきた中で、今回の事態は、今後の中学入試にも検討課題を示す結果となりました。

もともと新校舎のクラスエリアの構造は、各学年５クラスずつの編成を前提にしてスクエア等も設けています。そこで他の学年のクラス数はそのままにすることを決定した上で、増加した１クラス分については諸案を検討した末に、メディアエリアの図書室横の自習室をＨＲ教室に充てて改造した次第です。同じ３階とはいえ、１クラスだけ離れたことは学年全体のまとまりにはマイナスであり、生徒達と担当教員に新たな負担をかけたことをおわびするばかりです。併せて新自習室をレッスン教室と兼用でメディアエリア１階に移して、別に新しい自習コーナーを校内の数か所に拡充しました。生徒達が気軽に寄って、一人であるいは友達と自習したり、談笑したりできるスペースを、学校としてできるだけ大切にしたいと考えています。

４月の中高生徒会の総務委員選挙で中１のことが話題になりました。中１定員の３名に対して、実に９名もの立候補者が名乗りをあげたのです。まだ新たな環境に慣れない中でのこの積極性は、大きな宝であると感じられました。

その週には富士五湖方面への学年遠足が行われ、級友や担任との親睦が深まりました。絶好の晴天のもとで富士山をバックに素晴らしいクラス写真も撮れました。

先日の全校公開授業では、全校で４３１世帯の皆様方にご参観頂きましたが、そのうち中１のご父母は９割前後もの方々が来校して下さいました。例年同様とはいえ、中１諸君の日々の授業に臨む積極性や、活発な発言の様子は、我々教員にも大きな元気を与えてくれます。

中１の特別教育活動では、「生まれてよかった～誰もが等しく与えられた生命と存在の大切さを知る」をテーマとして、ＧＷをはさんでの課題作文をテーマとして取り組み、車椅子・アイマスク・もみじ箱などを使っての体験学習やＮＰＯ指導者の方の講演など、新しい学習に取り組んでいます。

最後に、この中１特活のねらいについて紹介したいと思います。

「人間社会には強い者もいれば弱い者もいるが、一人ひとりの努力を励まし、それぞれの可能性を最大限に生かしていける社会こそが〝人間らしい〟社会であることを認識できるようにする。そしてハンディキャップを持っている人たちも、自分達と同様にそれぞれの夢や願いを持ち、苦労や努力をしながら懸命に生きているということについて、体験を通じて認識を育てる。」

（中１学年の指導方針より）

湘南学園のホームページ

学園のホームページをご存知ですか。皆さんはどれくらい湘南学園のホームページにアクセスされていますか。

学園のホームページは各校ともに広報活動の一環として、学校説明会や入学試験などにかかわる情報を学外に提供し、学外へ向けての貴重な情報源となっていました。

これまで在学生や保護者の皆様にも行事や活動の様子などお知らせしてきましたが、あまりその存在をお知らせする場面がなかったようです。

そこで今年度に入りホームページを積極的に活用し、各校の活動の様子をご覧いただき、学園長のメッセージなどもお伝えしていきたいと考えております。

「学園長からの日々のメッセージ」

藤岡先生は傾聴を大切にされ、多くの保護者や関係者の来訪を得ました。

そして更に多くの方々と声を交わすきっかけとして、ホームページを活用していこうというお考えです。

その時節の考えを掲載し、ご意見をいただくことも考えています。

就任当初から「学校教育に関して湘南学園から議論を巻き起こそうではありませんか」という学園長のお考えの意図の表れが（その３）として掲載され一方通行になりがちのホームページが、交流のきっかけとなる仕組みであることがわかります。是非この機会を利用し、学校と家庭が交流できる場となることを目指していきたいと思います。

「日々更新されています ホームページ」

各パートのホームページをごらんいただくと現在の中学・高等学校、小学校、幼稚園の様子がわかります。

中学・高等学校では「中高日誌」、小学校では「今日の学園小学校」、幼稚園では「きょうのようちえん」など日々更新しています。

是非ご覧いただき、学園生活に関心を持っていただきたいと思います。

（小学校　高橋　慎司）

学園長便り（その３）

®‘M¶Í¯qxzrOMO¶Íp`•O{
y åw¤¶!gpxzxaŠoz
›Ís”!g :›Gå`‡`h{\
•txzýÍ÷®L‹zýMð®L‹z
¬qôÍÖ¼w9!‹zåMéqsIh
\qp`•O{`T`zfOMO¯Ø$
s\q‘“‹?‘“‹z®‘M¶Í¯›
{Š”Õ<~-¢ ~\Fw~îs&M
w—U‡MhALiqS‹M‡b{!g
\xzˆœsz\w¶ ›®‘M¶ ¯
qôaz84`o!g`hwpb{\w
ôTq84›O’W”\qxˆ0t•^
•‡dœ{
y MjyœG~s\qxz®‘M¶Í¯
qxrOMO¶ÍswTz›¶
¶.U°•`oÝÝ`zý°å\~
w¶»tælò›)Qcz¶»›~lX
'q-ooMX\qpb{fwhŠtž
As\qxz\F~ t®†ú¯q®¸
`^¯q®Fîò¯›-Ëb”\qpb{
®ÇÔ¯¢ £´ÍpzÔújOÌ
Ý£¢ @£w¤¿· ®-‡`w\q
yw-Q¯T’z®‘M¶Í¯›ßQ”
°mwÎïÄ›ˆmZ‡`h{…^œx
rOSòats“‡bT{]™_›¶
Õ‡pS/d<^M{

●学園ホームページのＵＲＬ●

湘南学園トップページ
http://www.shogak.ac.jp

学校法人
http://www.shogak.ac.jp/houjin

中学・高等学校
http://www.shogak.ac.jp/mh

小学校
http://www.shogak.ac.jp/_p

幼稚園
http://www.shogak.ac.jp/_y

二〇〇五年度入試の結果と今年度の取り組みについて

中高学習進学指導主任　服部　基樹

二〇〇五年度入試は、受験人口が前年の七二万二千人から六九万一千人へと減少する中で、センター試験の受験者が一万七千人減少しました。平均倍率は、国公立が前年の五・二九倍から五・〇倍に、私立が前年の三・五倍から三・四倍と、前年よりさらに広き門となりました。

二〇〇五年度入試のキーワードとして、新課程入試前年、薬学部六年制化前年、法科大学院二年目、会計大学院設立、国公立五教科七科目化の増加、国公立入試前期一本化の開始、医学部理科三科目化の開始などが挙げられました。センター試験では化学が大幅アップ、英語・生物が大幅ダウン。この状況から、文系は国公立出願が慎重に、私立は併願校が増、理系は国公立は強気の出願、私立は大幅減。新課程入試を前に全体に安全校志向という傾向が見られました。

その中で、文系では外国語・教育が大幅減、経済・商は復調の兆しが、理系では資格が取得できる医歯薬看護医療系が引き続き増、理工・農学系が大幅減、女子大の人気回復、などが特徴として挙げられました。

湘南学園では、進学志向は文系は例年並みでしたが、理系が特に全国的な傾向と同様に、医歯薬看護医療系が約半数を占め、理・工学系が非常に少ないという内訳でした。この点と、卒業生が一五五人と例年に比べて少人数であったこと、また、推薦による進学者が多かったことが大きく影響した入試結果となりました。

まず、国公立の東京医科歯科・金沢（医）を始め、医・歯・薬科では合格が例年に比べて多くみられました。また、早・慶・上智といった最難関私大の合格も昨年を上回りました。一方で、私立大、特に医歯薬系のないＭＡＲＣＨ大では合格が伸びず、全体として合格数を減らしました。全体の学力の引き上げなど、課題がはっきりとした入試結果でした。主要な大学の合格数を最後に掲載しましたのでご参照下さい。

次に、今年度の取り組みをご紹介します。入学された皆さんの学力を最大限に伸ばし、一人でも多く一つでも高い希望進路の実現を可能にしていくこと、これを目標に学習・進学の指導体制を強化していきます。

①『進路指導室』

昨年度から生徒向けに開室を始めましたが、この度生徒用ＰＣがインターネットにつながり、新規にコピー機・掲示板も設置しました。昼休み・放課後のこの部屋の利用も広がり、高三生は元より、中学生でも資料を見に訪れています。今後もタイムリーな情報提供・進路相談などを充実させていきたいと思います。

②『校内大学入試説明会』

今年度も主要な私立大学・国公立大を招き実施します。

③『テストシステム』の整備

昨年度まで行われていた基礎学力試験を学力到達度をはかる試験と実力試験に整備します。的確な学習指導で学力の引き上げをはかります。

④『高大連携』

オープンキャンパスの有効利用、教授を招いての『模擬授業』『研究室訪問』などの実施を考えており、現在各大学に実施の可能性を打診中です。

⑤『中・高六カ年の進学指導カリキュラム』『入試結果と学内成績との相関データ資料』などの作成に着手、卒業生・社会人を招いての『進路座談会』『進路講演会』などについても計画を練りたいと思います。

二〇〇五年度大学入試合格実績

・卒業生１５５人・数値は、現浪計（現、浪）

国公立・大学校　合計12（8、4）

学校名	計	現	浪
北海道医療	2	0	2
北海道東海	1	1	0
北陸	1	1	0
麻布	5	4	1
青山学院	10	6	4
亜細亜	1	1	0
大妻女子	1	1	0
桜美林	1	1	0
学習院	5	3	2
学習院女子	1	1	0
神奈川	9	4	5
神奈川工科	5	5	0
神奈川歯科	1	1	0
関東学院	7	6	1
北里	3	1	2
慶應義塾	11	10	1

私立大学　合計278（221、57）

学校名	計	現	浪
山梨県立	1	1	0
神奈川保健福	2	2	0
横浜市立	1	1	0
首都大学東京	3	2	1
金沢	1	1	0
一橋	1	1	0
東京医科歯科	2	1	1
東京	1	0	1

私立大学

学校名	計	現	浪
上智	6	6	0
芝浦工業	3	2	1
実践女子	2	2	0
駒澤	1	1	0
国士舘	4	4	0
國學院	1	1	0
工学院	1	1	0
恵泉女学院	1	1	0
昭和	4	3	1
昭和薬科	1	1	0
城西	1	1	0
城西国際	1	1	0
成蹊	7	6	1
成城	5	4	1
聖マリアンナ	1	1	0
聖徳	1	1	0
専修	4	2	2
創価	1	1	0
玉川	3	3	0
多摩美術	1	1	0
千葉科学	2	2	0
中央	15	11	4
津田塾	1	1	0
鶴見	2	2	0

中学1年遠足

中1学年主任　加藤　正文

中学1年では、去る4月22日に学年の日として遠足を実施しました。中学に入学して間もないこの時期に、クラスや学年の仲間たちとおしゃべりをしたり一緒に行動したりする中で、生徒諸君に少しでも友だちの輪を広げてもらいたいと考えたのです。遠足当日は幸い天候にも恵まれ、楽しく気持ちのよい春の一日を満喫することができました。行きのバスの中では、遠足委員を中心にバスレクを工夫し、どのクラスもわいわい楽しく過ごしていたようです。バスに2時間ほど揺られて着いたのが鳴沢氷穴です。鳴沢氷穴は富士山の噴火の際にできたトンネル式洞窟で、富岳風穴とともにとても有名です。氷穴の中では、低い天井に頭をぶつけたり、夏でも0度しかない寒さに震えたり、天然の氷柱に驚いたりと、多くの生徒諸君が思い思いに楽しんでいました。氷穴見学後、まずは紅葉台を目指してクラスごとに山道を歩きました。山の緑も徐々に鮮やかになり、場所によっては山桜も目にすることができました。山登りというほどの道ではありませんでしたが、最後の急斜面ではみんな息を切らしていました。紅葉台で飲んだスポーツドリンクは、さぞおいしかったことでしょう。そして紅葉台からラストスパートで目的地の三湖台に到着しました。三湖台から見えた富士山の雄大さ、西湖の美しさ、青木ヶ原樹海の神秘さは筆舌に尽くしがたいものでした。三湖台では仲のよい友だちが集まって思い思いにお弁当を食べました。春の心地よい天気のもと、雄大な景色を眺めながら食べたお弁当の味は格別なものだったはずです。しばし休憩を取った後、クラスごとに富士山をバックに記念撮影をし、下山。帰りのバスの中でも、みんな遠足の余韻を楽しんでいたようです。翌日学年全員に遠足の感想文を書いてもらいました。その感想文は「氷穴がおもしろかった」「山歩きは疲れたが、富士山の雄大さには感動した」「バスレクが盛り上がった」「友だちといっぱい話せた」など、どれも楽しかったというものばかりです。遠足実施の当初の目的も果たせたのではないかと考えています。学年の生徒諸君全員が、この遠足で得たものをこれからの学校生活の様々な場面で生かしてくれればと思っています。

学校名	計	現	浪
帝京	3	3	0
桐蔭横浜	2	2	0
東海	9	8	1
東京工科	3	2	1
東京工芸	5	4	1
東京慈恵会医	2	0	2
東京女子	2	2	0
東京女子医科	1	0	1
東京電機	4	4	0
東京農業	2	2	0
東京薬科	2	1	1
東京理科	5	3	2
東邦	2	1	1
東洋	2	1	1
東洋英和女学	3	3	0
日本	17	12	5
日本医科	1	0	1
日本女子	3	1	2
日本薬科	1	1	0
フェリス女学	1	1	0
文化女子	2	2	0
文教	1	1	0
法政	9	6	3
武蔵	1	1	0

学校名	計	現	浪
武蔵工業	5	5	0
明治	10	8	2
明治学院	11	9	2
明星	1	1	0
立教	9	8	1
和光	2	2	0
早稲田	15	11	4
近畿福祉	1	1	0
関西国際	1	1	0
関西学院	1	1	0
産業医科	1	1	0
エルカミノ	1	1	0
カピオラニ	1	1	0
セントラルオクラホマ	1	1	0
レイクランド	1	1	0
テンプル	1	1	0
共立女子短	1	1	0
文教女子短	2	1	1
国公・大学校	12	8	4
私立	278	221	57
短期大学	3	2	1
専門学校	8	8	0
4年制大計	290	229	61